19th 20th century Comic Bands in the Photograph

▲「マッガー・スワッガー教授」バンド（英）

写真で見る 19世紀～20世紀の コミックバンド！

カズーありゾボあり…

［編纂］ガヴィン・ホルマン Gavin Holman（日本語訳＝井上直）

©Gavin Holman : Comic Bands - Kazoo and Zobo, 2020

数年ほど前、ウェストヨークシャー（イングランド北部）のある街から、「マッガー・スワッガー教授バンド」［強いて訳すと「空威張りの泥棒教授バンド」か？］という名前を持つバンドの写真（右）が1枚送られて来た。本物のブラスバンドではないながらも、この写真は1890年代～1900年代に、人々の娯楽や慈善事業の募金などのために活動した〝コミック〟バンドの記録として興味深い。

こうしたバンドは、祭りやフェスティバルなどに合わせて作られた即席のバンドだったが、中には長続きしたものもあった。カズー（kazoo）のような楽器と太鼓を中心に、お手製の楽器や、本物の金管・木管楽器なども混じった形態が多い。

カズーと同じ構造を持つ楽器「ゾボ（Zobo）」は、1890年代の初めごろに米国で作られ、簡単に〝演奏〟できるのと価格の安さのおかげで、一時、急速な流行を見た。英国でもこの楽器は、その後すぐに国中に広まっている。

ヨークシャー西部の地域ではこうしたバンドは「トミー・トーカー」バンドとして知られていたが、他にも次のような面白い名前を持つバンドがたくさんあった［以下、カッコ内の訳はあくまでも参考程度］。

▲クレイトン・ハイツ・カズーバンド（英・ブラッドフォード）

▲第7エアドリー・ライフル・ゾボバンド（1914・英）

▲チェルムスフォード救貧法機関のジャズバンド（英）

▼コンセット・コミック・バンド（英）

◀ゾボは19世紀末に米国人のW.H.フロストがカズーを元に考案した。カズーと同じく管内に振動膜を張り、吹き込むとその振動が楽器の形に応じて共鳴する。金管楽器や木管楽器の形にすれば、アンブシュアを作ることなく、原理的にそれらと同じ操作で音が変えられる。コルネットやサックス、トロンボーン、バスホーン、ピッコロなどの楽器が売られ、価格は当時8ドル程度だった。

19th ~ 20th century Comic Bands in the Photograph

▲ブラッドフォードのコミック・カズーバンド（英）

▲オトリー・スプリッシャム・スプロッシャム・スプラッシャム・コミックバンド

▲トミー・トロール・バンド（英）

▲ヘーゼルディン・プライズ・ジャズバンド（英・ハースリンデン）

◀顔を黒く塗ったコミックバンド。

写真で見る 19世紀～20世紀の コミックバンド！

▲傷病兵コミックバンド（英・ハロゲート、1916）

▲キーリー・ウィッフム・ワッフム・ウッフム・バンド（英）

▲アルヴェルソープ・ワーキング・メンズクラブ・コミックバンド（英）

▲炭鉱スト期間中のアバーシノン・コミックバンド（英）

▲フリートウッドのドゥーダ機関車バンド（1911・英）

ナニー・ゴート・ランサーズ（雌山羊の騎兵たち）、アンダーグラウンド・アーティレリー・ジャズバンド（地下砲兵隊ジャズバンド）、ロイヤル・トランプス（王室の放浪者）、キング・タッツ・ランサーズ（ツタンカーメン王の騎兵たち）、Drホールズ・ラフ&レディ・バンド（ホール博士の間に合わせバンド）、パドック・シルバー・ピッギン・バンド（馬小屋の銀桶バンド）、キーリー・ウィッフム・ワッフム・ウッフム・バンド（翻訳不可能）、モーリー・パロック・ヌーク・アンセム・バンド（意味不明）。

最後に挙げたモーリー・パロック・ヌーク・バンドは1900年に作られ、リーダーのビリー・コモンズは踊るロバの衣装を着けていた。

こうしたバンドは第2次大戦の頃までときどき活動を続けたが、第2次大戦当時の例としては、デュースベリ（ヨークシャー州）のソーンヒル・エッ

19th ~ 20th century Comic Bands in the Photograph

▲レディース・ゾボバンド（英）

写真で見る 19世紀～20世紀の コミックバンド！

ジ地区で活動したエッジ・アーバーズがある。このバンドは、地区の空襲警戒の任務に当たる人たちで作られたことから、そう名付けられた。

〝普通〟のバンドもまた時に応じてコメディ業に携わった。イベントに合わせてドレスアップしたり（浮浪者の格好をしてドレスダウンすることも）、あるいは顔を黒く塗る、ピエロになる、女装するなど。そうした演奏では通常の楽器を使う以外に、しばしばゾボやカズーのような楽器も使われた。

似たようなコミック・バンドは米国にも見られる。様々なショーやサーカスの〝本物〟のピエロやコミック・バンド一座なども加え、19世紀末から20世紀前半頃まで米国中を公演して回った。ここには米国のそんなバンドの写真も掲載している。

残念ながら多くのバンドの名前やロケーション、どんな時に撮影されたのかなどを特定するのは不可能である。しかし写真を見ると、バンドのメンバーたちも観客も、彼らの演奏やコスチュームを楽しんでいたことは明らかだ。

▲少年ゾボバンド（米）

▲「ウォータータウンの有名バンド」（米・第1次大戦の頃）

▲ランカシャーのカズーバンド（英）

▲ドイツのゾボバンド（1933）

▲不明のコミックバンド（米）

▲グレート・メッカナ・バンド（カナダ・オンタリオ州ハミルトン）

著者紹介■Gavin Holman：金管バンドの歴史と過去の資料を専門に研究している。大英図書館の IT 部門のヘッドとして 35 年間勤務し退職。20 年前に金管バンドの歴史やデータをまとめたサイト「IBEW」(https://ibewbrass.wordpress.com/) を開設し、世界中の金管バンドにオンラインでデータを提供している。
Contact: gavin@ibew.co.uk